

こんなところに防災製品

(公財)日本防災協会 広報室

古都京都の玄関である京都駅とその周辺の印象を形成するものは…？

空中経路や大階段を設けるなど、斬新な設計の京都駅ビル、また、すっかり古都の景観に馴染んだ京都タワーなどの建築物に、かなりのインパクトを感じている方が多いことと思います。

そして、それらに寄り添うように、柔らかな和の雰囲気随所に醸し出しているのが、「建築空間に生きる和紙造形の創造」をテーマに和紙インテリアアートに取り組み、国際的に活躍されているデザイナー、堀木エリ子氏の作品です。

2015年春には、リニューアルされた京都駅ビル専門店街「ザ・キューブ」の「中心から広がるキューブ型の連続したモチーフ」による光天井が話題となりましたが、京都駅とその周囲に位置する京

湯元ハトヤ瑞鳳閣、ホテルグランヴィア京都、オムロン京都センタービル、ホテルセントノーム京都、メルパルクKYOTO、キャンパスプラザ京都などにも数々の作品が使われ、京都の玄関の和の印象を形成しています。

今回訪問した京湯元ハトヤ瑞鳳閣は、「アートと温泉、そして京情緒でお迎える和のホテル」として京都駅前初の自家源泉を備え、2014年5月に建て替え開業されました。

もちろんサービスの基本として安全安心と環境への配慮に積極的に取り組まれ、火災安全への配慮として、カーテン・じゅうたん等の防災品はもちろんです。防災認定製品による堀木エリ子氏の作品をフロントに設置しておられます。

堀木エリ子氏は、(株)堀木エリ子アンドアソシエイツとして、創作和紙(テント類シート類幕類)で防災製品認定を取得されています。



広島に寝具類に多種の防災製品を採用しているホテルがあるとの情報が入り、取材しました。旅館・ホテル等の宿泊施設に泊まる人の安心・安全を第一に考えた推奨例として紹介します。

訪れたのは、広島駅の近くにあり本年7月に新装オープンしたばかりの「カプセルホテルCUBE広島」です。沖田支配人から導入経緯について聞いたところ、「オープンにあたり広島市消防局に防火管理等の相談した折に寝具類に防災製品を使うことを勧められました。県内でも数年前にホテル火災で宿泊客が犠牲になったことを知っていたので、ホテル経営をする者として一度でも火災を発生さ

せてお客様はじめ近隣にご迷惑をかけることは、絶対あってはならないことでもあり、備えるのが当たり前のこととして120床に700セットの防災製品導入を決めました。」と説明してくれました。客室を拝見すると、ベッドマット、ベッドパット、シーツ、枕、枕カバー、掛け布団、掛け布団カバーの全てに防災製品ラベルの貼付が確認できました。宿泊客は、探さないとラベルには気づきません。防災製品を使用していることを集客宣伝に使うことはないという支配人の言葉に、防火・防災管理を第一とするホテルマンの矜持を感じました。



導入された防災製品